

平成23年度

専門委員会だより

専任委員会の活動

vol. 1



今年の専門委員会はパワーが違います・・・！

「専門委員長会」出席者

組織・運営専門委員長 又野幸治（西脇小）
研修専門委員長 松田依子（泉台小）
広報専門委員長 佐野博行（桜が丘中）
健全育成専門委員長 加地幸夫（高津橋小）
家庭教育専門委員長 川嶋裕子（原田中）

平成 23 年 6 月 30 日、神戸市 PTA 協議会専門委員会活動が始まりました。

専門委員会は「組織・運営」「研修」「広報」「健全育成」「家庭教育」の分野を設け、5 校種（幼稚園、小、中、高等学校、盲・養護学校）の各連 P または区 P から推薦され、市 P 協会長委嘱された単位 PTA 役員 26～28 名で構成され、各専門分野の中で議論したり、情報を交換したり、熱心に活動されています。

今回は、これらの専門委員長 5 人が集まって、それぞれの委員会について、情報交換と共通理解を図ることを目的とした座談会を行いました。

市 P 協の定例役員会とは違って、委員長として悩んでいることや自慢したいことなど、自由に話し合いました。

今年の専門委員会はこんな感じ

一まずはそれぞれの委員会の印象を話していただきました。

（又野）「組織・運営」では、緊張感がほぐれたところもあるし、まだの感じもある。委員会は初めての方もおられるからか。

（加地）「健育」で 2 回委員会を開催してきたが、自分一人が話しすぎることを反省し、出席して頂いた皆さんが話しやすい進行に心掛けないとダメだと感じた。その上で、5 校種それぞれの立場で発言を頂いたが、もっと校種を超えた情報交換ができる雰囲気が必要ではないかと思った。

（又野）成果物のある委員会といわれている研修は研修会に向けて講師を誰にするかなど話し合える。広報も年間 2 号分の広報紙発行に向けての活動。その中でうちはしゃべって帰るだけみたいで。「まあ、そんな話もあるんだ」で終わってしまう。最後に何か達成感のあるものが欲しいが、成果とするには話し合う内容がそれに伴うかどうか。単 P の悩み相談にしても結果を導くように、やり方次第だと思う。今年は、テーマを持って引っ張って行くつもり。

（川嶋）「広報紙」のような成果物が残らない委員

会は、どういうものが成果なのか。家庭教育では、みんなのアンケート回答から多数決を取って、テーマを 1 つ選び、「携帯」について話し合った。子どもに携帯を持たせている年齢を「小学生からだという方は？」などと聞いたり、メール配信については、登下校情報配信の情報などを委員さんから教えてもらったり、ほぼ全員にしゃべってもらった。全員の話の一度には聞きにくいので、次の回はグループディスカッションを考えている。何グループかに分かれ、グループの中で司会や書記、発表者を決めて、初回アンケートの回答まとめからテーマをチョイスして、困っていることを話したり、アドバイスを貰ったりしたい。これは、昨年のやり方と同じようにやっているのだが。



（又野）人数が多いとじっと順番を待っているのも苦痛だし、小グループの方が、話が弾みそうなのでグループ討議は「組織」でもやってみたい。

（松田）会議では口の字型が一番話しやすいかと思ひ、1 回 2 回目は口の字型だったけれど、向かい側が遠くて話しにくそうだった。

（川嶋）「健全育成」との違いを意識して、経験豊富な副委員長からアドバイスをいただきながら親と子に関することにテーマを絞った。副委員長さんには、私が進行に詰まったらフォローしてくれて助かっている。会議で最初、委員さん全てにしゃべってもらっても 30 分しかたつてなかった。2 時間もつのかと焦って、急遽ディスカッションをした。

（松田）うちはよくしゃべる方が多い。校種を超えて、専門的な方も多く委員さん同士で、アドバイスし合ったり、意見を出したりしていた。

（川嶋）確かにディスカッションで話し合いとなったらよくしゃべっていた。

（加地）2 回目の委員会で感じたことだが、皆さん PTA の活動には熱い思いがあって、伝えたいこと、訴えたいことがたくさんあるんだなと気づいた。



楽しい専門委員会を目指す。佐野広報専門委員長

（佐野）1回目は総会で、割と委員さんの参加があったが2回目が台風で順延した日だったためか委員さんが少なかった。議事録をFAXにて送付しているが委員の皆さんの事情もあり全員参加は難しい。「広報」は、発行までのスケジュールもタイトで、AB、2つの班にするので、少しでも委員の皆さんの力を借りなければ期日までにできない。一人ひとりが貴重な存在だ。

（加地）広報の課題については、委員さんが「自分も一緒にやらなければ、発行ができなくなるかも」という意識を持ってもらえることが必要では。自分が委員会に出席しなくても広報紙が出来てしまえば、意識が下がっていくような気がする。これまでの先輩達は、出席者の数が少なくても不断の努力で発行してきて頂いているが、理想は全員で紙面を造りあげることだと思う。

（又野）積極的にやらないのは、一人で頑張ると、他に何か仕事が終わってきそうだと思うからか。「ただでさえ仕事や単Pで忙しいのに…」。

（加地）委員会も4回、5回と続ける中で、出席できる方はどんどん打ち解け合い、仲間意識が出てくると思うが、もし、何らかの事情で出席できなかった委員の方が、輪に入りにくい雰囲気ができるとしたら残念だし、委員長としてそういった部分には配慮できるよう心掛けたい。専門委員会としては、30名に近い委員の方がいる中で、全員で意見交換も必要だと思うが、できれば小グループでのディスカッションも必要だと思う。

今回のお話は…

平成23年8月2日（火）
神戸市総合教育センター803号室で
5人の専門委員長が集まり、「第1回
専門委員長会」を開催し、お伺いした
話の内容です。

（佐野）幼稚園のお母さんは特に時間の制約があって大変。皆さん子どものお世話、仕事で毎回参加はできないし、やはり全体を見るものとしては責任を感じる。臨機応変に議事録など他の委員さんをお願いすればいい所を自分でやってしまう。

（松田）孤独なランナーですよ。専門委員会での会議の役割でも、書記や議事録作りをしてくれる人がいなくて委員長だけでは大変。誰かに記録を頼めば司会進行にも集中できる。

（佐野）当日用のレジメは自分で作る。

（松田・川嶋）それがよくない。大変なら誰かにお願いすればいいと思う。

（松田）正副委員長さんが難しい場合でもこちらからお願いすれば、会の進行を助けてくれる方や、何かお手伝いをして下さるムードメーカーの方がきつーと思う。

（又野）そういう方に引っ張られて委員会が進んで行くのかもしれない。「これをやりたい」という意見も自然に出てくる。

（松田）確かに最初は「自分が何かやらないと」と緊張した。

（佐野）自分にはまだ周りを見渡す余裕がない。

（加地）委員さんは単Pで会長や実務をやっている方がほとんど、スキルの高い方ばかり。誰もが素晴らしい何かを持っているはず。

（川嶋）自分も単Pでは会長でありながら役員と同じように働く。専門委員会でも正副副問わず議事録も書いてもらう。パソコン操作も苦手、でもこれはできるなど、人によって様々だから、誰にやってもらってもいい。



しっかりした信念で語る松田研修専門委員長

（又野）他の委員会では男性はどれくらい出席しているのか。つい先日の組織・運営委員会後のランチ会に出席した男性は自分1人しかいなかった。昨年参加した研修委員会の中でも毎回出席されていて作業もきっちりして下さるが、寡黙でランチ会には参加されない男性会長がいらした。でもあ

る時、ご自分の単P役員には会長らしくしっかりと話しされていて「ああ、この人いい人なのだ」と。皆いい人なのだけれど。

「ランチ会」はコミュニケーションツール 一結束を固め、委員さんの個性を見出し、心を開くために「ランチ会」は必要？

(加地) 9月の委員会では、ランチ会を企画している。外食ではなく、お弁当会として、会議を午前中に集中して行い、午後からフリートークを行うこととしている。



研究熱心な又野組織・運営専門委員長

(又野) 呼びかけの方法はどうしているのか。

(加地) 次回会議の案内文で呼びかける予定だ。

(佐野) 初めからランチを予定に入れる方法。しかし次の仕事があるなどで、ランチの時間を取るのも結構難しいのでは。

(川嶋) うちはランチ会を9月に、8月は会議が休みなんで飲み会を計画。子どもを置いて夜は無理という方もおられるので来られる人だけで。

(松田) うちも8月に納涼会を呼びかけて、9人集まった。参加は少なくとも良いので。

(川嶋) 「(夜は無理でも) ランチなら」という返事も来て、次はランチ会をする予定。会議に来ていない人にはFAXやメールで呼びかけもする。

(佐野) ゴールが決まっても、委員の皆さんにどの程度お願いできるのか分からず、1回目の会議でAとBに分けることがまず難しい。

(松田) ランチ会を自動的に毎回開催するなどすれば、協力してくれそうな方を見つけられるかも。

(川嶋) そういう場で「〇〇で困っている」と本音を言ってみるといのは。

(又野) みんな単Pでは長を張っている。力を貸してくれる人がほとんど。今年、「組織」では、自分一人でないこと、支え合うことをテーマに進める。とはいっても、締め切りがあるので広報は大変。けれど誰かが助けてくれる。以前「研修」委員をした時にランチ会に参加した。人は限られて

くるが、ランチを自主的に参加したい人もいる。8人ぐらいだったが、単Pのことも良く分かった。

(佐野) 距離を縮めることが大切なのだと思う。

(松田) ランチ会は大切。心から打ち解けあえる。接点のない校種の方とも話せるし、ランチ会の方が話しやすいこともある。

(加地) 会議ではしっかり議論をして、ランチ会では自由な意見交換をしたい。ただ、ランチ会で、素晴らしいアイデアが出れば、後日、委員会できちんと議論・確認するという基本スタイルがあれば、ランチ会は有効な位置づけになると思う。

市P協専門委員会ってなあに？

一各区P、連Pでは専門委員会をどう考えるか。

(又野) 各区に5つの専門委員さんがいるという形にしている。引継ぎの時どう伝えているかが問題。専門委員会は市P協と単Pとの接点であり、重要。しんどいとか、つまらないなど、中身がわからないままデメリットだけ伝わってしまう。

(佐野) 特に広報は、出席回数が多いというところだけクローズアップされる。確かにサラリーマンにはつらい。今年は必ず出席しないと回らないような雰囲気を取り払い、休んでも誰もができるようにしっかり役付けをしたい。

(川嶋) 大変な時の手助けは誰もがうれしいもの。

(又野) やり方も一人の負担にならないよう、誰かと分担するなど工夫。

(加地) 委員の皆さんも、仕事があり、家庭があり、単Pがある上で、専門委員会の活動を頂いているので、やはり一人で負担を背負うのではなく、役割分担も大切だと思う。

(又野) PTAが専門委員会だけなら没頭できるが、単Pをいい加減にできない。専門委員会が終わる3月には皆「よかった」の声がほとんどだが。

(加地) 自分が単Pや区P連などの地元で、専門委員会の楽しさを少しでも報告できれば、広く必要性が理解されるのではと思っている。

共通のテーマでの活動も必要

一今年度市P協の取り組みとして提案している「食育」「消費者教育」についてどう考えるか。

(加地) 2回目の委員会で提案内容は伝えた。どちらの課題も、突き詰めれば「家庭教育」につながると思う。ただ、「食育」についてはどの委員会でも扱いやすいテーマかも。「消費者教育」は5校種という幅広い世代では取り上げていくのに課題が多いかも知れない。

(川嶋) 「消費者教育」は子どもの年齢によって違うので難しい。「食育」には取り組んでみようという気持ちはある。

(佐野)「消費者教育」といえるのかわからないが、子どもたちのITに対する感覚について、親の知らない知識の仕入れ先を調べたい。



みんなへの心配り。川嶋家庭教育専門委員長

(川嶋) インターネット、携帯についての講義をやってくるところがあるらしいと委員さんから聞いた。みんなの話をまとめて、何か取り組めることから考えている。

今年はココを頑張りたい

一活動を広めていくアイデアや、専門委員会として目指すものは。

(加地) いま、子どもたちが思っていることを感じ取れるよう、子どもたちを対象にアンケート調査を行いたいと考えている。健育の委員さんの所属校や、各連Pの役員校の方にお願ひできればと検討している。また、5校種のスケールメリットを生かす意味で、会議の半分はアンケート実施に向けた実務を、半分は幅広い意見交換ができればと思っている。

(松田) グループディスカッションをしてみたい。5校種ならではの、アドバイスを頂けそうだと思うので。「ワールドカフェ」式に話してみたい。

(川嶋) 委員会の皆と相談しながら進めていきたい。「親と子が共に育つ」が年間の大きなテーマとした。「食育」にも取り組む。子どもがどう育つかは、結局は親次第だと思う。

(佐野) 学校が荒れたと言われた頃の昔の新聞を見て、30年位前に遡って、昔の記事からテーマを探し、特集を考えている。「PTA神戸」そのもののPRもしたい。「PTA神戸」を読んでない人はどれぐらいいるのか。委員が苦労して作った分、読んでほしい。

(加地) 職場の同僚や、意外な人から「PTA神戸、見たよ」と言われたこともあり、実は、読んでくれている人もたくさんいるんだと感じた。

(又野) 組織・運営の永遠のテーマ「役員選出」について、各区の役員選出方法など、本部役員へ問い合わせてみるなどして。マニュアル作ってみ

たい。自分自身も単Pは4年目。やってみたら意外と楽しい。それを伝えたい。

(加地) 全体をひとくくりにして統計的にまとめるのではなく、児童数の規模や地域特性の似通った学校どうし、選出方法を取りまとめれば、何か方向性が見えるのでは。

(佐野) 我が校の単Pの本部役員は17人。任期は2年で、1年ごとに半数を改選するので、1年間引継ぎ期間も兼ねて倍の役員数でやっている。会長の負担を減らすためには少し違う。本部役員のイメージは「つらい」「敷居高い」それを変えたい。

(川嶋) 支えてくれる人が必要。普通の人でもできることをPRしてほしい。

(又野) よく想像するのだが、「今、会長をしている自分」と「会長をしなかったとしたら自分」。どっちがよかったか、今の方がずっと充実して楽しい。そう思える。

(加地) 今日みたいな、専門委員長との座談会があれば、いろんな相談に乗ってもらえたり、アドバイスも頂けたりするので有意義だと思う。

(川嶋) 一人で考えて悩んで解決するのはちょっと大変。相談すれば解決することもある。



とにかくチャレンジ！加地健全育成専門委員長

(佐野) 四半期に一度くらいは開催したい。話のネタに詰まった時、他はどうしているのか知りたいような時に開催できると嬉しい。

* * * 終わりに * * *

—今回、委員会が始まってすぐに。委員長としてできるのか、不安に感じたことや分からないこと、やってみたいことなどをお互いに話し合い、今後の委員会活動に活かせるヒントを得ていただきました。委員長同士で横のつながりを太くし、ますます各専門委員会が活発に、また、市P協の核として、活躍されることと思います。今後の活躍をお知らせしていきたいと思います。

5月25日



神戸市PTA協議会

〒650-0044

神戸市中央区東川崎町1-3-2

神戸市総合教育センター内

TEL(078)360-3453